

6. 飼育標準表

(1) 春蚕期

春 蚕 飼 育 標 準 表

群馬県

- ◆蚕室や蚕具は掃立前によく掃除し、洗える蚕具類はていねいに洗ったのち十分日乾しておくこと。
- ◆乾湿計、掃立用具、補湿材料などを用意する。
- ◆蚕座紙、防乾紙は新しいものを準備する。
- ◆蚕室、蚕具、貯桑場、上簇室等の消毒及び飼育中の蚕体、蚕座と蚕室内の防疫は「蚕の病害虫防除」の項を参照のこと。

- ◆飼育場所はていねいに掃除し、土間・簇などは本テキストの蚕病予防を参照のうえ消毒する。
- ◆補湿用具は使用前によく点検して整備し、火災の危険がないように十分に注意する。

1～2 齢補湿防乾紙育 3 齢半防乾紙育								
齢	日順	時刻	給 桑			蚕 座 積	摘 要	
			1 回量	1 日量	調桑			
1 齢 26℃ 27℃ 85% (差 1.5°)	1	9	90		1.0	0.21 (0.35×0.6m)	掃立桑を与える。	
		15	90	310	1.5		掃きおろし、整座して給桑。蚕座が乾きやすいから補湿を十分ににする。	
		21	130					
	2	7	190		2.0	0.36 (0.6×0.6m)	座をひろげる。今後防乾紙は給桑30分前にとる。適宜補湿する。	
		14	250	760				
		21	320			0.68 (0.8×0.85m)	座をひろげる。	
	3	7	450					
		14	360	1,130				
		21	320		1.5		桑どめ。	
	経過日数			3日12時間		給桑量 2.2kg		
	2 齢 26℃ 85% (差 1.5°)	4	21	500	0.5	3.0	1.12 (0.8×1.4m)	網入れ、桑づけ。かるく補湿。
		7	800		4.0			起除沙、座をひろげる。
14		1,100	3.2			1.62 (0.9×1.8m)		
21		1,300					眠網を入れる。	
7		1,300						
14		1,000	3.1				眠除沙、桑どめ。	
21		800		2.0			眠除沙、桑どめ。	
経過日数			2日23時間		給桑量 6.8kg			
3 齢 25℃ 75% 80% (差 3.0° 2.0°)	7	20	2.0	2.0	全芽	3.24 (0.9×1.8mを2枚)	網入れ、桑づけ。上だけ防乾紙をかけ、補湿はしない。	
	7	2.0						
	14	2.3	6.9				起除沙。	
	21	2.6					座をひろげる。	
	7	3.2						
	14	3.8	11.0					
3 齢 25℃ 75% 80% (差 3.0° 2.0°)	21	4.0					眠網を入れる。	
	7	3.8			cm			
	14	3.2	8.5				眠除沙。	
	21	1.5		4.0			桑どめ。	
11	7					防乾紙をとり、座をひろげ、石灰をまく。		
経過日数			4日00時間		給桑量 28.4kg			

注：(蚕種1箱：30,000粒)

◎注意事項

- 飼育作業をはじめる前、ていねいに手を洗い、消毒(ケミクロン1000倍液等)する。
- 貯桑は周囲からホコリ(病原)の入らないよう被覆を完全にすること。
- 1～2 齢の給桑量は、くれすぎて蚕座が堆積しないよう注意する。
- 4 齢期の保温のため前もって施設を作っておくこと。
- 桑のしおれが激しいときは、蚕座に寒冷紗などをかけてしおれを防ぐ。

4～5 齢条桑育 〔1日3回(前7、後1、後7)および1日1回給桑育〕					
齢	日順	1日分の給桑量	蚕座面積	作 業	飼育取扱い・環境調節
4 齢 22℃ 24℃ 75% (差 3.0°)	1	25 kg	8.1 m ² (1.5×5.4m)	網入れ・桑付け	●本表は4 齢朝桑付けて始まる場合を示した。 ●4 齢中は低温に注意し20℃以下にならぬよう補湿する。 ●1日1 回育の給桑時刻は原則として午前9時とし、給桑2 時間前に被覆材をとりはずし、蚕座の手直しをする。(以下同じ)
	2	40	10.8 (1.5×7.2m)	除沙・払座	
	3	52			
	4	65			
	5	43			●経過をそろえるため、遅口をつり分け、経過別飼育を行う。
	6		14.8 (1.5×9.9m)	就眠・払座 石灰散布	●就眠したら、通風を促し、蚕座の乾燥を図る。 ●眠中低温にならぬよう注意する。
経過日数		6日12時間			給桑量 条桑 225kg
5 齢 20℃ 23℃ 70% (差 3.0°)	1	20 kg	14.8 m ² (1.5×9.9m)	桑付け	●よく起きそろってから桑付けする。(午後7時頃)
	2	70			●低温気象時のビニールハウスでは、日中の昇温時に給桑量を多目にして十分食桑させる。夜間は残桑の生じないように調節する。
	3	95		除沙準備	●網か綱を入れ除沙準備をする。
	4	145	18.9 (1.5×12.6m)	除沙・払座	●1日1 回給桑育では被覆材の合せ目は5 cm位あけ、座むれを防ぐ。 ●給桑量が増えるに従って条桑が密着しやすくなるので、よく解きほぐして給与する。
	5	170			●盛食期、必要に応じ蚕座の手直し、補桑をする。
	6	200			●簇器の組立てなどは上簇前に済ませておく。
	7	200		上簇準備完了	
	8	200			
	9	170			●初熟蚕5%程度は手拾いする。 ●条払いする2～3 回前の給桑時に網入れする。
	10	70		上 簇	●上簇 自然上簇は熟蚕40～50%で簇のをせる。 条払いは40～50%で払いおとしにかかる。
経過日数		9日12時間			給桑量 条桑 1,340kg

簇	上簇後の日順	目標温湿度	摘 要
	1 日目	温度 22°～23℃ 湿度 60～70% (差4.5°～3.0°)	戸障子をひらき、火力を使用する。強い光線や風を防ぐ。
2 日目	解じよのよしあしがきまる時期であるから、火力を使い通風換気をはかる。回転簇下のこもの取換え、改良わら簇のこも抜きは、上簇24時間以内に行うこと。		
3 日目			
中	4 日目		吐糸終了。
	5 日目以降	22°～24℃	火力を使用し、化蛹をうながす。取繭8～9日目、選繭を厳重に。出荷10～11日目。

◎ビニールハウス利用の飼育では

- 低湿地に設置したハウスは、地面からの湿気によって室内が多湿になるので、床面にビニールシート等を敷き防湿を図る。
- 日中晴天時には、側幕を1 m内外開放して通風換気に努める。
- 低温のときや夜間は側幕をおろすが、ハウス内環境の保全のため密閉は避ける。
- ◎稚蚕人工飼料育の桑葉移行時の注意事項
 - 配蚕後2～3 日間は、桑葉育の温度より1℃位高めて飼育する。
 - 配蚕後2～3 回は、やや軟らかめの桑葉を与える。

養蚕火災を防止しましょう

(2) 夏・初秋蚕期

夏・初秋蚕 飼育標準表

群馬県

- ◆蚕室や蚕具は掃立前にきれいに掃除し、蚕具類はていねいに洗ったのち十分日乾しておくこと。
- ◆乾湿計、飼育用具などを用意する。蚕座紙、防乾紙は新しいものを準備する。
- ◆蚕室、蚕具、貯桑場、上蔭室の消毒及び飼育中の蚕体、蚕座と蚕室内の防疫は「蚕の病虫害防除」の項を参照のこと。

- ◆簡易蚕室では、日中の焼けこみを防ぐとともに補温設備をあらかじめ用意すること。
- ◆壮蚕用の貯桑場は、準備の段階で計画的に清掃・消毒を行うこと。蔭も必ず消毒する。

1～2 齢補湿防乾紙育 3 齢半防乾紙育							
齢	日順	時刻	給桑 (全芽量)			蚕 座 面 積	摘 要
			1 回量	1 日量	調桑		
1 齢 27℃ 85% (差 1.5°)	1	7~8 15 21	90 90 130	310	1.0 1.5	0.21 (0.35×0.6m)	掃立桑を与える。掃きおろし、整座。蚕座が乾きやすいから補湿を十分に。
	2	6 14 21	190 250 390	830	2.0	0.36 (0.6×0.6m) 0.68 (0.8×0.85m)	座をひろげる。今後防乾紙は給桑30分前にとる。座をひろげる。
	3	6 14 21	450 390 250	1,090	1.5		桑どめ。
	4	8				1.12 (0.8×1.4m)	就眠、防乾紙をとり、座をひろげて石灰をまく。
経過日数 3日8時間 給桑量 2.23kg							
2 齢 26℃ 85% (差 1.5°)	4	16 21	400 650	1.05	2.0	1.12 (0.8×1.4m)	網入れ、桑づけ。補湿をかるくする。
	5	6 14 21	800 1,000 1,300	3.1	3.0	1.62 (0.9×1.8m)	起除沙。座をひろげる。座むれに気をつける。
	6	6 14 21	1,500 950 550	3.0	2.0		眠網を入れる。 眠除沙、桑どめ。
	7	6				3.24 (0.9×1.8mを2枚)	就眠。防乾紙をとりかこわけて、座をひろげ、石灰をまく。
経過日数 2日22時間 給桑量 7.15kg							
3 齢 26℃ 75% 80% (差 3.0° 2.0°)	7	14 21	2.0 3.2	5.2	粗剉芽	3.24 (0.9×1.8mを2枚)	網入れ、桑づけ。上だけ防乾紙をかけ、補湿はしない。1かこの給桑量は1/2量とする。
	8	6 14 21	4.0 4.0 4.6	12.6			起除沙。室内の換気をはかる。座をひろげる。室内のむれるときは防乾紙を一時取る。
	9	6 14 21	4.0 4.0 3.2	11.2	4.0		眠網を入れる。 室内の昇温防止につとめる。 眠除沙。桑どめ。
	10	6					就眠、防乾紙をとって、座をひろげ石灰または焼糠をまく。
経過日数 3日10時間 給桑量 29.0kg							

注：(蚕種1箱：30,000粒)

◎注意事項

- 飼育作業の前、手を洗って消毒(ケミクロン1000倍液等)をすること。
 - 貯桑は周囲からホコリ(病原)の入らないよう被覆を完全にしておくこと。
 - 稚蚕用桑の摘採は下記の基準によること。
- | | | |
|------------|-----|-------------------------------|
| a. 残桑全芽の場合 | 1 齢 | 最大光葉にあたる葉から下へ5～6枚ふくめて新梢を切りとる。 |
| | 2 齢 | 同じく7～8枚ふくめて新梢を切りとる。 |
| | 3 齢 | 同じく10～12枚ふくめて新梢を切りとる。 |
| b. 摘葉の場合 | 1 齢 | 最大光葉から下へ4～5枚同時摘みとり。 |
| | 2 齢 | 最大光葉の1枚下から6～7枚同時摘みとり。 |
| | 3 齢 | 最大光葉の1枚下から10～12枚同時摘みとり。 |

4～5 齢条桑育 〔1日3回給桑(前6、後2、後7～8)および1日1回給桑育〕					
齢	日順	1日分の給桑量	蚕座面積	作 業	飼育取扱い・環境調節
4 齢 24℃ 26℃ 75% (差 2.5° 3.0°)	1	26	8.1 (1.5×5.4m)	網入れ、桑付け	●本表は4齢朝桑付けて始まる場合を示した。 ●防暑に注意を払う。 ●乾燥の甚だしい場合は日中寒冷紗などをかける。 ●1日1回の給桑時刻は原則として午前9時とし、給桑2時間前に被覆材をとりはずし、蚕座の手入れをする。(以下同じ)
	2	46	10.8 (1.5×7.2m)	除沙・拡座	
	3	58			
	4	52			●遅口をつり分け、経過別飼育を行う。
	5			16.2 (1.5×10.8m)	就眠・拡座・石灰散布
経過日数 5日3時間 給桑量 条桑 182kg					
5 齢 24℃ 26℃ 70% 75% (差 3.0°)	1	50	16.2 (1.5×10.8m)	桑付け	●よく起き揃ってから桑付けする。(朝9時頃)
	2	90		除沙準備	●網か縄を入れ除沙準備をする。
	3	140	20.25 (1.5×13.5m)	除沙・拡座	●1日1回育では、被覆材の合せ目は5cm位あけ、座むれを防ぐ。 ●必要に応じ蚕座の手直し、補桑する。防暑と気流に気をくばる。 ●盛食期は給桑量不足のないように特に夜間は給桑量を多目にする。
	4	190			
	5	200			
	6	180		上蔭準備完了	●蔭器の組立てなどは上蔭前にすませておく。
	7	130			●初熟蚕5%程度は手拾いする。
	8			上 蔭	●上蔭 自然上蔭は熟蚕40～50%で蔭をのせる。 条払い熟蚕40～50%で払いおとしにかかると。
経過日数 6日10時間 給桑量 条桑 980kg					

中	上蔭後の日順	目標温湿度	摘 要
			1 日目
中	2 日目	温度 24°～26℃ 湿度 60～70% (差4.5°～3.0°)	回転蔭の尿うけは2～3回とりかえる。改良蔭蔭では上蔭後20時間以内にこも抜きを行う。極力通風換気につとめる。
	3 日目		通風換気につとめる。 吐糸終了。
中	4 日目以降	—	取蔭は上蔭後6～7日目、選蔭を厳重に行うこと。

- 屋内飼育では、通風換気につとめ極力室内温度の上昇を防ぐこと。特に4齢期の高温を警戒する。
- ビニールハウスでは側幕を常時開放し、十分に通風換気をはかる。
- 給与桑がしおれる場合は寒冷紗等で蚕座を被覆してもよいが、早めに取り除くこと。
- 条桑収穫の時や給桑のさいは、桑を直接地面におくことを止め、必ずビニールシートなどの敷物をつかう。
- 上蔭蔭数は、回転蔭では孔数の7～8割にとどめ、1室の収容量をなるべく少なくする。
- ◎1日1回給桑育では
 - 蚕座に寒冷紗(#100)を敷き、地面あるいは床から少なくとも10cm程度の高さとして蚕座下の通気を図る。側面も寒冷紗を使用する。
 - 給桑量は原則として1日分の量を1回に給与するが、食桑状態をみて加減する。
 - 普通条桑育に比べて経過日数が若干短縮するので、良桑を十分くれこむ。

(3) 晩秋蚕期

晩秋蚕飼育標準表

群馬県

- ◆蚕室や蚕具は掃立前にきれいに掃除し、蚕具類はていねいに洗ったのち十分日乾しておくこと。
- ◆乾湿計、飼育用具、蚕体消毒剤などを用意する。蚕座紙、防乾紙は新しいものを準備する。
- ◆蚕室、蚕具、貯桑場、上簇室等の消毒及び飼育中の蚕体、蚕座と蚕室内の防疫は「蚕の病害虫防除」の項を参照のこと。

- ◆簡易蚕室では、周囲や屋根からの焼けこみを防ぐための手段を講ずること。
- ◆壮蚕用の貯桑場は、準備の段階で計画的に清掃・消毒を行うこと。簇も必ず消毒する。

1～2 齢補湿防乾紙育 3 齢半防乾紙育							
齢	日順	時刻	給桑 (全芽量)			蚕 座 面 積	摘 要
			1 回量	1 日量	調 桑		
1 齢 26℃ 27℃ 85% (差 1.5°)	1	7～8	90 ^g 90 130	310	1.0 ^{cm} 1.5	0.21 ^{m²} (0.35×0.6m)	掃立桑をやる。掃きおろし、整座・補湿を十分に。
		15 21					
	2	6	190	840	2.0	0.36 ^{m²} (0.6×0.6m) 0.68 ^{m²} (0.8×0.85m)	座をひろげる。今後防乾紙は給桑30分前にとる。座をひろげる。
		14 21	250 400				
3	6	450	1,150	1.5		桑を十分くれる。桑どめ。	
	14 21	380 320					
4	6				1.12 ^{m²} (0.8×1.4m)	就眠、防乾紙をとり、座をひろげ、石灰をまく。	
経過日数 3日12時間 給桑量 2.3kg							
2 齢 26℃ 85% (差 1.5°)	4	20	500 ^g	0.5 ^{kg}	2.0 ^{cm}	1.12 ^{m²} (0.8×1.4m)	網入れ、桑づけ。
		6	750	3.3	3.0	1.62 ^{m²} (0.9×1.8m)	起除沙、座をひろげる。補湿をゆるめる。
	14 21	1,150 1,400					
	6	6	1,500	3.5	2.0		眠網を入れる。座むれに注意。眠除沙、桑どめ。
14 21		1,200 800					
7	6				3.24 ^{m²} (0.9×1.8mを2枚)	就眠、防乾紙をとって、かごわけて座をひろげ、石灰をまく。	
経過日数 2日20時間 給桑量 7.3kg							
3 齢 25℃ 75% 80% (差 3.0° 2.0°)	7	16	2.0 ^{kg}	4.6 ^{kg}	粗刈芽	3.24 ^{m²} (0.9×1.8mを2枚)	網入れ、桑づけ。上だけ防乾紙をかけ、補湿はしない。1かこの給桑量は1/2量とする。
		21	2.6				
	8	6	3.2	10.4			起除沙座をひろげる。
		14 21	3.2 4.0				
9	6	4.4	11.6			眠網を入れる。	
	14 21	4.0 3.2					
10	6 11	2.4	2.4	4.0 ^{cm}		眠除沙。就眠。防乾紙をとり座をひろげ、石灰または焼糠をまく。	
経過日数 3日18時間 給桑量 29.0kg							

4～5 齢条桑育 (1日3回給桑 (前7、後1、後7時) および1日1回給桑育)					
齢	日順	1日分の給桑量	蚕座面積	作 業	飼育取扱い・環境調節
4 齢 23℃ 25℃ 75% (差 2.5° 3.0°)	1	26 ^{kg}	8.1 ^{m²} (1.5×5.4m)	網入れ、桑付け	●朝夕の低温時は補湿し、日中高温時には通風をはかる。 ●1日1回給桑育の給桑時刻は原則として午前9時とし、給桑2時間前に被覆材をとりはずし、蚕座の手入れをする。(以下同じ) ●遅口をつり分け、経過別飼育を行う。
		45	10.8 ^{m²} (1.5×7.2m)	除沙・拡座	
	3	56			
	4	55			
	5		16.2 ^{kg} (1.5×10.8m)	就眠・拡座・石灰散布	●石灰などを散布し、蚕座の乾燥を図る。
経過日数 5日08時間 給桑量 条桑 182kg					
5 齢 21℃ 24℃ 70% 75% (差 3.0°)	1	30	16.2 ^{m²} (1.5×10.8m)	桑付け	●よくおき揃ってから桑付けする。(午後4時頃)
	2	60			●乾燥の甚だしい場合は寒冷紗などで蚕座を被覆する。
	3	70		除沙準備	●網か縄を入れ除沙準備をする。
	4	100	20.25 ^{m²} (1.5×13.5m)	除沙・拡座	●1日1回給桑育では被覆材の合せ目は5cm位あけ座むれを防ぐ。 ●次第に気温が低くなるから、冷湿にならぬよう注意し、夜間の給桑量を加減する。
		120			
	6	140			
	7	150		上簇準備完了	●簇器の組立てなどは上簇前にすませておく。
	8	140			
	9	110			●初熟蚕5%程度は手拾いする ●自然上簇は熟蚕40～50%で簇をのせる。 条払いは熟蚕40～50%で払い落としにかかる。
	10	40		上簇	
経過日数 8日15時間 給桑量条桑 960kg					
簇 中	第1日目			戸障子を開放し、火力を使用する。蚕が足場をつくるまで、強い光線や風を防ぐ。	
	2	温度 22°～23℃ 湿度 60～70% (差4.5°～3.0°)	解じよのよしあしがきまる時期であるから、火力をつかい、極力通風換気をはかる。回転簇下のこもの取替え、改良蔭簇のこも抜きは、上簇24時間以内に行うこと。		
	3				
	4		吐糸終了。		
	5日目以降	22°～24℃	火力を使用して化蛹をうながす。収穫8～9日目、選繭をていねいに。出荷10～11日。		

注：(蚕種1箱：30,000粒)

◎注意事項

- 飼育作業の前、手を洗って消毒(ケミクロン1000倍液等)をする。
- 貯桑は周囲からホコリ(病原)の入らないよう被覆を完全にしておくこと。
- 稚蚕用桑の摘採は下記の基準によること。
 - a. 残条全芽の場合
 - 1 齢 最大光葉に相当する葉から下へ4～5枚ふくめて新梢を切りとる。
 - 2 齢 " 下へ6～7枚 "
 - 3 齢 新梢の基部から切りとる。
 - ※ 簡易摘梢全芽は、さらに1～2枚つみ下げる。
 - b. 摘葉の場合
 - 1 齢 最大光葉から下へ3～4枚同時摘みとり。
 - 2 齢 " 5～6枚同時摘みとり。
 - 3 齢 最大光葉の1枚下から8～10枚同時摘みとり。
- 4 齢期朝夕冷湿のときは若干補湿を行い、日中高温多湿の際は通風換気につとめる。
- 葉質が低下し、桑がしおれやすいから日中は寒冷紗などを覆う。
- 条桑収穫の時や給桑の際は、桑を直接地面におくことを止め、ビニールシートなどの敷物をつかう。

◎ビニールハウス利用の飼育では

- 低湿地に設置したハウスは、地面からの湿気によって室内が多湿になるので、床面にビニールシート等を敷き防湿を図る。また、降雨の際室内に雨水が流入しないよう排水対策を講じておく。
- 日中晴天時には、側幕を1m内外開放して通風換気に努める。
- 低温のときや夜間は側幕をおろすが、ハウス内環境の保全のため、密閉は避ける。
- ◎稚蚕人工飼料育の桑葉移行時の注意事項
 - 配蚕後2～3日間は桑葉育の温度より1℃位高めで飼育する。
 - 配蚕後2～3回はやや軟らかめの桑葉を与える。
 - 配蚕後、適時網でつり分け、経過別に飼育する。

養蚕火災を防止しましょう。

稚蚕人工飼料育標準表〔くわのはな〕

(15,000粒) 群馬県版

齢	目的 温湿度	日順		蚕座 面積 m ²	給 餌 量		空 調 大 部 屋			小 部 屋		
		日 (月日)	齢中		1 回量 kg	齢中 kg	時刻 時	作業	摘 要	時刻 時	作業	摘 要
1 齢	30℃ 85% ∧ 90%	1 ()	1	0.15	0.4		9	掃立	○催青台紙と覆紙を並べて掃立。 ○給餌量の確認 (1袋10kgから逆算) ○蚕座の周辺の飼料を掃込む、整座。 ○乾き易い場合は防乾紙をかける。	9	掃立	○掃立前に補湿を行う。 ○催青台紙と覆紙を並べて掃立。 ○給餌量を確認 (1袋10kgから逆算) ○蚕座周辺の飼料を掃込む、整座。 ○防乾紙をかける。
		2 ()	2	0.25	0.4		13	むら直し 給餌	○給餌前に蚕のむら直しをする。	16	むら直し 給餌	○給餌前に蚕のむら直しをする。
		3 ()	3	0.47			15	拵座	○拵座は2齢飼食時の面積にしておくこと。 ○眠蚕が出現したら加湿停止。	9 15	拵座	○防乾紙を取る。 ○補湿材を取り除く。 ○拵座は2齢飼食時の面積にしておくこと。
	眼中 55% ∧ 65%	4 ()	4			0.8	8	除湿	○眠蚕が30%出現したら除湿開始。 ○這出しが懸念される場合には、這出し防止剤を蚕座周囲に3～4cm幅に散布する。 ○除湿時・眠中の温度が下がらないようにする。	8	除湿	○眠蚕が少し出現したら蚕座の乾燥をはかる。 ○前扉の開放によって温度が下がる場合には、補湿につとめる。 ○這出しが懸念される場合には、這出し防止剤を蚕座周囲に3～4cm幅に散布する。
2 齢	28℃ 85%	5 ()	1	0.47	0.9		13	むら直し 飼食	○飼食前に蚕のむら直しをする。 ○ほとんど起き揃ってから飼食する。	13	むら直し 飼食	○飼食前に蚕のむら直しをする。 ○ほとんど起き揃ってから飼食。 ○補湿 (防乾紙をもんだものをかける)
		6 ()	2	0.63	1.2		13	給餌		13	給餌	(防乾紙を取る) ○補湿材を取り除く。 ○分箔をする場合にはこの時期に行う。
		7 ()	3	1.19			8	拵座 除湿	○3齢飼食面積に拵座を行う。 ○眠蚕が60%出現したら除湿する。 ○這出しが懸念される場合には、這出し防止剤を蚕座周囲に3～4cm幅に散布する。	8	拵座 除湿	○3齢飼食面積に拵座を行う。 ○眠蚕が少し出現したら除湿を行う。 ○前扉の開放によって温度が下がる場合は、補湿につとめる。 ○眠蚕座の乾燥不足の場合は、這出し防止剤を全面に、這出しが懸念される場合には、蚕座周囲に3～4cm幅に散布する。
	眼中 55% ∧ 65%	8 ()	4			2.1			○除湿時・眠中の温度が下がらないようにする。			○除湿時・眠中の温度が下がらないようにする。
3 齢	27℃ 85%	9 ()	1	1.19	3.6		8	むら直し 飼食	○起き揃ってから飼食を行う。 ○換気をはかる。 ※切削片長さ5cm、幅1cm、厚さ5mm (2回目も同じ)	8	むら直し 飼食	○起き揃ってから飼食を行う。 ※切削片長さ5cm、幅1cm、厚さ5mm (2回目も同じ)
		10 ()	2	1.43	3.2		14	拵座 給餌	○換気をはかる。	14	拵座 給餌	○多湿にならないように換気をはかる。
		11 ()	3				13	配蚕		13	配蚕	
	眼中 55% ∧ 65%						合計 9.7					

○注意事項

- 飼育中は作業時以外、暗飼育とする。
- 空調機械飼育の場合は定期的に回転させ、蚕架育の場合は適宜差し替えを行う。
- 給餌の際、飼料を扱う人はポリ手袋を使用し、絶対に素手で飼料に触れないようにする。
- 1眠の拵座はハシを使って行い、2眠以降の拵座は手袋をはめて行う。
- 配蚕は1～2齢飼育は3齢起蚕、1～3齢飼育は3齢3日目配蚕とする。
- 3齢配蚕の場合は網入れを行い、給桑して就眠させる。
- 配蚕後2～3日間は桑葉育の温度より1℃位高めで飼育する。
- 配蚕後2～3回はやや軟らかめの桑葉を与える。